

# グラントワ応援団通信

第22号

2009年5月24日  
事務局

0856・31・1860

## 東京都交響楽団を迎えて

情報発信ボランティア

大庭 明博

九月五日には東京都交響楽団の特別演奏会が大ホールで催されます。益田市出身の首席トランペット奏者、岡崎耕二さんの凱旋公演でもあります。そして今回の独奏楽器はヴァイオリンです。そこで演奏曲目など、簡単に紹介させていただきますね。

プログラムの前半・4曲目は、多くのヴァイオリン協奏曲の名曲のなかでも、最高峰との誉れ高い、チャイコフスキーの作品です。作曲時、チャイコフスキーは「炎のような靈感」に襲われこの曲を創造したとのことですが、美しく流麗な旋律を持つ一方で、とてもゴージャスな雰囲気音楽です。ソロを弾くヴァイオリンリストの佐藤俊介さんはチャレンジ精神の旺盛な、テクニク、音楽性とも定評ある若手の注目株ですので、東京都響との白熱の共演を期待できそうですよ。プログラムの後半は、ドヴォルザーク

の交響曲第八番です。有名な新世界交響曲と並ぶ人気曲で、こちらの方が好きですという人も多いようです。たおやかでノスタルジックな調べと抒情的な美感をもつ名曲だと思います。最終・第4楽章冒頭はトランペットのファンファーレで始まります。ここでの岡崎耕二さんの演奏が、とても待ち遠しく思われますね。東京都交響楽団演奏会は、指揮者、オーケストラ、ソリスト、演奏曲目とも、全て益田では初めてだと思いますが、プレ・コンサートが2本予定されていますので、本前に観賞されてみては、いかがでしょうか。ひとつは、7月5日の東京都交響楽団メンバーによる金管五重奏。もうひとつは8月下旬にヴァイオリンの佐藤俊介さんによる演奏があります。是非、九月五日が楽しみ多い一日となりますように。

## 「おくりびと」

あとぞき

文化事業課

門脇

永はるか

「三月に上映する作品が、アカデミー賞を獲得したら、きつと大反響だね」と、映画ボランティア会議で話をしていたことが現実となり、三月のグラントワシアター「おくりびと」は超満員。「作る人の想いが、ぎゅゅとつまったこの映画を、ぜひたくさんの人に見てもらいたいと、フィルム

の貸し出しを依頼したところ、「年明けから大手配給会社ではなく、地元

の会社からフィルムを借りられるかもしれないが、まだわからない」との返事。作品の決定は迫られています。あきらめきれず、待つこと一ヶ月。上映可能の知らせをいただき、上映決定！

上映後のアンケート等で、大ホールで上映をしてほしいというお声もずいぶんいただきましたが、大ホールには映画を上映するための特別な設備がなく、小ホールでの回数を増やすことしか今のところ手はありません。「おくりびと」を観たいすべてのお客様のご希望に沿えることができなかつたのが、残念でなりません

そしてアカデミー賞外国語映画賞ノミネート、そして見事受賞！それからというもの、グラントワの事務室の電話は鳴り止まず、あつという間にチケットは完売寸前。配給会社に電話し、上映回数を2回から3回へ、さらに前日に会員様限定の回を追加するなどてこまいで、チ

ケットは追加したそばから完売していきました。そして当日は、前売り券を持ったお客様が小ホールのホワイエ入り口から総合受付まで、約百メートルの列を作って並び、取材に来た記者の方もびっくり。映画を見終わった方のお顔から出た充足感に「色々あったけど上映してよかつたなあ」と感じました。

石見地方に映画館がなくなつてしまつた今、スクリーンからあふれる映像の迫力や美しさ、またすばらしい音響に包まれるしあわせを、多くの人と共有するという醍醐味をグラントワで感じていただけるよう毎月大切に上映していきたいと思つています。

# おろち君と金曜日

ポランティア 大谷 澄江

最近朝夕、鼠の額を眺めるようになりまして。その前に、広い庭（グラントワは、私の庭）ハブラシを持って一周します。おろち君の大きな唇をさわり、鼻の穴に指を突っ込み背中に座り、今日一日が穏やかでありますように。グラントワの瓦をながめながらしばし歯磨きをします。なんとという景色。これほど贅沢な時間はありません。私がポランティアに参加することから、趣味のない私に次々に、死にかけていた細胞が動きはじめました。あらゆることに手を出し、顔をだし、口まで出して毎回、毎週、毎月のめり込みました。今参加している生花メンバー紹介です。ジャジャジャジャーン……

いつも自宅からたくさんの花を持参して、玄関、南エントランスを飾られるIさん（この頃腕をあげたなと思う私）よっしや、よっしや、いいよ、いいよとうまく褒めてくれるMさん（のせられて下手でもうれしい私）ネー、みて、みてこれどう、とちよこちよこ小さい花器に入れて楽しく訴えるKさん（なんでこんなにここにこでさるんだろー）早く生けて早く帰ろうよ、と場の進行をよみながらはっぱをかける

Mさん（ぐずぐず、ちよろちよろしている私）どう？これの間にうん・ふーんいいねーとNさん。そのなかでいちばん若いFちゃん。ひとりもくもくとおばさまたちの愚痴や世間話ももろともせず、出来上がり作品は応接室へ。（若いのに感心）昼間部の方は紹介されません。「つくよ、つくよ、すぐつく」といわれ私は明日にもつくと思いい込み花を生けた残りを貰って帰りいろいろ植えました。そのおかげでねずみの額がいま猫の額に変わりつつあります。これも生花ポランティアのおかげ。今では金曜日は、本当の花の金曜日となりました。



# 販売は甘露

イベントポランティア

城市 恵子

今年度、7名の登録（4月現在）でスタートしたイベントポランティア、5月4～5日の室町文化フェスで高津川特産品の販売を担当いたしました。

昨年来、イベントポランティアといえば物品販売！というイメージが出来上がってしまったのでしょうか（笑）水質日本一の高津川特産品といえば「あゆ」あゆの甘露煮・あゆみそ・びん詰めうるか・干しあゆ・あゆ飯の素あゆ飯は、その場で炊いて1パック五百円で販売というまさにおいしい企画。漁協の方々に教わりながら、三升炊きのガス釜で炊き上がったいいにおいのあゆ飯。おこげもあつたりして 最高！

ポランティア数名と共にパック詰めするも次から次と売れまくり、4日はなんと予定オーバーの三升を3回 約90パックが即完売したのでした。5日、漁協の方々はお休みで、我々ポランティアのみ。前日習ったあゆ飯もなんとかおいしく炊け、《あゆ飯の素》を売るための試食販売に重点をおき、《あゆみそ》の試食も付け売り込もうという作戦をたてました。かなり売



れたなあーと思った昼過ぎ、雨が：：中庭はくもの子を散らすように人が去り、雨脚が強くなる前に商品を撤収しました。にわかあゆ通になった二日間でした。差し入れをくださった皆様、ありがとうございます。お手伝いされたポランティアの皆様、お疲れ様でした。



上 「かしわ餅づくり」



上 石見美術館前入口ホール「琴演奏」



上 「生花会場」 下「足湯・しょうぶ湯」



下「室町鍋」



上 開会行事ステージ風景 「益田市長あいさつ」 下「うぶすなの舞」

室町文化フェスタ  
「五月四・五日」会場風景



下中「紙芝居」

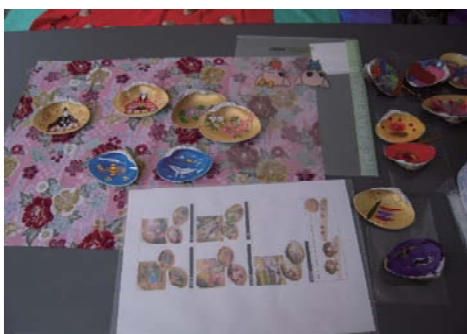
下右「中世の食再現」



下「貝あわせ」



下「竹馬」



# 「フォーレのレクイエム」 に参加して

友の会会員 齋藤 千穂

去る三月十四日（土）、グラントワ大ホールにて広島交響楽団定期演奏会がありました。最後の演目は「フォーレのレクイエム」。合唱団のメンバーは一般公募で、私も参加させていただきました。私はミサ曲の神聖で厳かな雰囲気大好きなのですが、「フォーレのレクイエム」を初めて聴いたとき、なんてきれいな音楽なんだろうととても幸せな気持ちになりました。天上の世界に誘われていくような、本当に素敵なレクイエムでした。鈴木織衛先生、栗山文昭先生や山崎秀雄先生のご指導の下、楽しく練習を重ねました。懇親会もありました。私は鈴木先生の隣の席だったので、皆に「これ面白いでしょ」とボレロの替え歌など面白い音楽を聞かせて下さったことを覚えています。とっても楽しくて気さくな方で、マダムに大人気でした。「あなたは誰を想って歌いますか」本番前日の練習中、鈴木先生から全員に投げかけられた質問です。本番はそれぞれの大切な人へ

の想いをのせて、とても感動的な演奏になったと思います。終わってしまったと思うたとしても寂しい気持ちになりました。「フォーレのレクイエム」に参加して、とても素敵な時間を過ごすことができました。年齢も職業も住む所も様々な、歌の好きな人達がたくさん集まって、楽しく真剣に歌えたことも貴重な経験でした。またグラントワで合唱に参加できる催しがあったら、ぜひ参加したいと思っています。これからも益田でたくさんのおすてきな芸術が紡がれていきますように。



練習風景

また、雪舟の号を名乗るのは四十三歳前後からで、それ以前、京都の相国寺で周文より絵を学び拙宗（せつそう・せつしゅう）と号して画僧として活躍していたが、大内氏に雇われて山口に移った。四十八歳で大内氏の遣明船で明に渡り、明でも作品を残し、禅僧として活動も行った。五十歳で帰国後は、やがて山口に戻り、山口を活動の拠点にして多くの作品を描いた。その間にも岐阜や益田や京都などへ旅した。八十歳以上の長寿を全うして亡くなった、というおおよその生涯を描けるようになった。ただ残念なことに、雪舟

## 中世益田

### 室町文化の魅力 「雪舟研究の今を語る」 を聞いて

室町文化フェスティバル「雪舟の魅力を探る」が五月五日に「中世益田の魅力を探る市民大学」として小ホールで開催された。景山純夫氏（神戸大学教授）の「雪舟研究の今を語る」基調講演があった。その講演の中で、雪舟の死没地は益田の可能性、山口定説を覆す発見が、益田家文書に記述があることが分かり昭和六十一年九月二十八日の山陰中央新報に掲載された。

がどこで何歳で亡くなったかはいまだはっきりしていません。とありました。私的には、雪舟の晩年作「天の橋立図」は「情景図」と聞いて、その高度な空間感覚の広がりには驚嘆する思いです。

情報発信ボランティア（AM）



中世益田の魅力を探る市民大学

あ  
と  
が  
き

今、新型インフルエンザが国内でも広がりをみせ、益田地域でもマスクの売り切れ状態が続いています。

今回は、室町文化フェスティバルの行事を中心にして記事を編集しました。会員の皆様がどのような思いでグラントワでのイベントに参加されているのか、そのお寄せいただいた記事で知ることができました。情報発信ボランティア（AM）